# 情報公開文書

2026/5/4 Ver.1.0
2026/6/12 Ver.1.1
2026/6/30 Ver.1.2

1. 研究の名称　炎症性関節炎の病態・病因解析

2. 倫理審査と許可
　京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

3. 研究機関の名称・研究責任者の氏名
　1）京都大学　大学院医学研究科　整形外科　講師　西谷江平
　2）藤田医科大学　総合医科学研究部門　ゲノミクス医学センター 教授　寺尾知可史
　3）東京女子医科大学　医学部附属病院　整形外科　特任教授　猪狩勝則

4. 研究の目的・意義
本研究では、「変形性関節症」や「関節リウマチ」などの関節の病気（関節炎）について、その原因や病気の進行に関わる体質（遺伝的な特徴）を調べます。また、遺伝的な特徴と合わせて、関節内で実際に起こっている組織や細胞の遺伝子発現や遺伝子発現を調節する機能の異常を調べることにより、どのような遺伝的な特徴が病気の発症や程度に関係しているのかを調べます。変形性関節症は、日本で約 2,300 万人が罹患しているとされる非常に多い病気です。また、関節リウマチも約 100 万人の患者さんがおられます。これらの病気では、痛みや関節の変形により、歩行や日常生活が難しくなることがあります。治療法は進歩していますが、十分な改善が得られない患者さんも少なくありません。現在、関節炎がなぜ起こるのか、なぜ悪化するのかについては、まだ十分に解明されていません。特に、「どのような人が病気になりやすいのか」「どのような仕組みで病気が進行するのか」を明らかにすることが重要と考えられています。本研究では、血液や関節組織の解析を通じて、関節炎に関わる遺伝的な特徴を調べます。また、関節の中に存在する組織や細胞を詳しく解析し、病気に関わる細胞や遺伝子の働きを明らかにすることを目指します。本研究により、関節炎の発症や進行に関わる仕組みの理解が進むことで、将来的な新しい治療法の開発、病気になりやすい方の早期発見、重症化しやすい患者さんの予測、などを調査することにより適切な個別化医療につながることが期待されます。

5. 研究実施期間
研究機関の長の実施許可日から、2031 年 3 月 31 日まで

6. 対象となる試料・情報の取得期間
2018 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに、京都大学医学部附属病院 整形外科、リウマチセンターで治療を受けた、炎症性関節炎（変形性関節症、関節リウマチが主ですが他の膠原病による関節炎を含みます）の患者さんで、生体試料の保管と将来の研究利用についての説明文書(A004)、免疫・炎症病態の解析（京都大学医の倫理委員会承認番号：G1287）により、血液や関節組織が保管された患者さんを対象とします。また、比較対照の患者さんとして、京都大学医学部附属病院で膝関節の手術（膝周囲の腫瘍、膝近位での切断術、外傷に対する手術）を受けた炎症性関節炎のない患者さんで、生体試料の保管と将来の研究利用についての説明文書(A004)により、血液や関節組織が保管されている患者さんも対象となります。

7. 試料・情報の利用目的・利用方法
京都大学において炎症性関節炎と診断された患者さん、または非炎症性関節炎で膝関節手術を受けられ、これまでに同意をいただいた上で保存されている血液や関節組織などの試料を使用します。本研究では、これらの試料を用いてゲノム解析することにより個人識別符号に該当するゲノムデータを作成します。その上で関節炎に関連する遺伝子や細胞の特徴を解析し、炎症性関節炎や変形性関節症の発症や病状、治療成績との関連を調べます。また、電子カルテや問診票に記載された診療情報をあわせて解析することで、病気の原因や治療反応に関わる因子を明らかにすることを目的としています。

8. 利用または提供する試料・情報の項目
血液と関節内組織（関節液、軟骨、滑膜）などのサンプルと、電子カルテや初診時・入院時・手術時の問診票から年齢・性別・身長・体重・併存症などの背景情報、病歴、家族歴、薬剤使用状況、関節変形の画像所見、可動域や腫脹などの理学所見、疼痛・機能・満足度などの臨床スコア、術後合併症情報、術後経過（再手術や予後）を研究機関内で提供・利用します。

9. 利用または提供を開始する予定日
研究機関の長の実施許可日

10. 当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称および研究責任者の職名・氏名
1）京都大学　大学院医学研究科　整形外科　講師　西谷江平
2）藤田医科大学　総合医科学研究部門　ゲノミクス医学センター 教授　寺尾知可史
3）東京女子医科大学　医学部附属病院　整形外科　特任教授　猪狩勝則

11. 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称
京都大学　大学院医学研究科　整形外科　講師　西谷江平

12. 研究対象者またはその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法
ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせ頂ければ、解析途中であれば解析対象から削除します。但し、公表後のデータからの削除はできかねます。

13. 他の研究対象者等の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内での研究に関する資料の入手・閲覧する方法
他の研究対象者等の個人情報及び知的財産に支障がない範囲で研究に関する資料の入手・閲覧が可能です。希望される方は、問合せ窓口までお知らせください。

14. 研究資金・利益相反
1） 研究資金の種類および提供者
科学研究助成金、日本医療研究開発機構
2） 提供者と研究者との関係
資金提供者の研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与はありません。
3） 利益相反
利益相反について、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査しています。

15. 研究対象者等からの相談への対応
1） 研究課題ごとの相談窓口
京都大学　大学院医学研究科　整形外科　西谷　江平
(Tel)075-751-4400 (E-mail) seikei@kuhp.kyoto-u.ac.jp

2）京都大学の苦情等の相談窓口
京都大学医学部附属病院　臨床研究相談窓口
（Tel）075-751-4748
(E-mail) ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

3）遺伝カウンセリングに関する窓口
京都大学医学部附属病院　遺伝子診療部
（Tel）075-751-4350（受付時間：平日 13：00～16：30）

16. 外国にある者に対して 試料・情報を提供する場合
現在のところ、海外に試料・情報を提供する予定はありません。

17. 研究に関する情報公開の方法

研究結果は学会発表や、学術誌への報告により公表します。

18. 研究対象者に係る個別の結果（偶発的所見を含む）の取扱い

個別の解析結果は基本的に開示しませんが、悪性腫瘍に非常に強く関係するゲノム異常や組織での遺伝子変異など、提供者の生命予後に関わると判断される異常が検出された場合には、提供者の主治医や京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会と協議し個別に開示するか話し合います。